



NO1905号

2019年5月23日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

秋厚労ニュース

増員署名

1時間で268筆

ナースウェーブ

5月18日（土）、2019秋田県医労連ナースウェーブが行われ、秋厚労4人を含む39人が参加。街頭署名行動で、現場の大変さや、医師・看護師増員の必要性を訴えました。



たくさん的人が足を止めて署名してくれました

1989年10月、看護師増員を求め、白衣の看護師1300人が銀座をパレードしました。同日の、東京都との交渉にも300人が参加。マスコミも大きく報道しました。これがナースウェーブの始まりです。

その後、日本医労連は、「看護師の労働条件改善」を世論に訴える機会として、全国各地でナースウェーブ行動を続けています。

この運動を経て、1992年に看護師・介護士を増やすための枠組み「看護師確保法」「福祉人材確保法」

18日は午後から、秋田市ぼぼろーどで街頭署名行動。天気も良く、買い物客や旅行客などが大勢行

き交います。

参加者が白衣やゼッケンをつけ「医師・看護師確保のための国会請願署名にご協力を願いします」と呼びかけると、足を止め

て「頑張ってください」「ご苦労様です」と、次々に署名してくれます。中には、

看護師志望の学生も。友達と一緒に署名してくれました。

1時間で268筆の署名が集まり、参加した人は「面白かった。意外と書いてくれるんだね」と話していました。

大幅増員の陳情 21市町村が採択

署名の後、中通労組会館へ移動しました。基調報告

看護師の労働条件改善を世論に訴える機会

1989年10月、看護が制定され、一定の成果がありました。

買い物客などが

「頑張つてください」と次々に署名

ありました。

では、県内21市町村議

会が夜勤改善・大幅増員のため「国に対し意見書の提出を求める陳情」を採択したことを紹介。

「いい看護がしたい、いいきいきと健康に働き続けたい」ということを一致

点に今後も運動しよう」と呼びかけました。

学習会

腰痛対策で自分の体を守つて



腰痛対策の学習会

学習会の講師は市立横手病院の理学療法士、小田嶋尚人さん。「腰は体の要です

く痛くなる前に・・ひどくなる前に・・腰痛対策」と題して話しました。

日本看護協会によると、保健衛生業で発生する業務上疾病のうち8割が腰痛。

看護師は腰痛があつても、休まず無理をしてしまう傾向にあります。小田嶋さんは「低い姿勢になる時は膝

を曲げて、腰に負担をかけないように」と話します。

「忙しいと思うが、ちょっと時間をかけて、自分の体を守ることが大切」と呼びかけました。

講演の最後に、みんなで「腰痛体操（職場でのストレッチ）」を実践。腰・背中・足をじっくりのばすと、「体

が温かくなるね」「スッキリした」との声が上がりま